

1 学校教育目標	2 本年度の重点目標
「渾身勉強」「白鳥蓮花に入る」 ～ 元気いっぱい 笑顔かがやく 児童の育成 ～	①自分づくり(心の安心を育む学校風土の確立と児童の自己肯定感の向上) ②仲間づくり(地域を生かした教育活動の推進と豊かな体験活動の充実) ③学びづくり(確実な学力向上と道徳教育の充実・発展)

重点目標を具体的に評価するための項目や指標を盛り込む

3 目標・評価

①自分づくり(心のサポート活動の推進)

領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策
教育活動	●志を高める教育	・夢や目標について自ら考えさせる	・「千代田の町や人が好きです」と回答する児童を100%にする。 ・「自らの夢や目標の実現に向けて努力する」と回答する児童を90%以上にする。	・社会科や道徳科、総合的な学習の時間等で、地域学習や郷土の歴史学習に計画的、積極的に取り組む。その際に、地域の教育資源や人材等を活用した学習を計画する。 ・全教科等、学校行事等を通して、夢や目標について自ら考えさせる時間や場面を設ける。
	●心の教育	・児童の自己肯定感の向上	・「心タイム」等で「ありがとう」「よさみつけ」「心の木」カードを年間25枚以上書く。 ・学校が楽しいと思う児童を100%にする。 ・自分のよさが言える子を80%以上にする。	・心タイムでは、カードの時間を年間8回、エンカウンターを年間5回実施する。児童の実態に合わせて、心タイム以外にもカードを書く時間を実施する。児童の「ありがとう」「よさみつけ」「心の木」カードを教師や保護者にも書いてもらい随時紹介し、生活の振り返りを行なわせる。 ・道徳の時間や学級活動、生徒指導、人権教育等の指導を通して、望ましい人間関係づくりを推進する。
	●いじめ問題への対応	・いじめをしない子どもの育成 ・生徒指導、教育相談の充実	・いじめ認知・認知をゼロにする。	・心アンケートやQ-Uテストの結果などを月一回の生徒指導連絡協議会時に協議し早期に共通理解をし、問題解決を図る。支援が必要な子どもに対して、SCやSSWとも連携し、家庭への対応なども考えていく。また、教育相談研修会で講師を招聘し、職員がいじめ予防対策について研鑽を積む。
	○基本的な生活習慣の確立	・『心はほかほか・掃除はびかびか運動』による指導の徹底	・「あいさつ+1」「無言掃除」「そろえる活動」の達成率を95%以上にする。	・「あいさつ+1」について、自分なりの「+1」を決めさせ、月ごとに振り返らせる。また、上手にできている子どもを朝の会、帰りの会、生活朝会等で称賛し、全体の意識を高める。 ・縦割り掃除では、毎時間の反省をしっかりとし、特に、リーダー(6年生)の意識を高めるように指導する。学級掃除については、実態に応じて随時指導をする。 ・靴やトイレのスリッパ並べについて、定期的に見回り、生活朝会や学級等でできていることを称賛したり、ボランティアバスポートを有効に活用したりしながら意識の向上を図る。
	○安全安心な学校	・児童の危機回避能力の育成 ・施設、環境の整備	・実効性のある各種訓練(交通安全教室・地震津波避難訓練・火災避難訓練・防災教室)を行う事で、児童の危機を回避する方法や態度を身に付けさせる。 ・防犯ブザーの所持率100%、携帯率95%以上、ヘルメット所持率100%、着用率95%以上にする。 ・毎月1回、安全点検を実施し、危険箇所をなくす。	・実施計画を十分に検討し、全職員の共通理解のもと実施する。 ・防犯ブザー携帯やヘルメット着用の効果について、児童や保護者に啓発する機会を持ち、点検の日を毎月継続して設けることで、児童や保護者の購入や携帯・着用への意識を高める。 ・毎月5日までに安全点検を行い、修繕箇所等は、速やかに改善する。 ・毎日校舎巡視を行い、安全面に配慮する。

②仲間づくり(豊かな体験活動の推進)

領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策
教育活動	○仲間づくり	・縦割り活動の充実 ・ボランティア活動の充実	・週2回の縦割り掃除や年間5回のなかよしタイム、遠足や体育大会等の行事での縦割り活動を通して、継続的な異学年交流を行う。 ・ボランティアの考えや実例を示し、ゴミ拾い等のボランティアの呼びかけなどを行う。 ・行ったボランティアを記入する「ボランティアバスポート」を1人年間1冊以上を目標に活動を行う。	・遠足や体育大会等の行事では、ふり返り活動を行い、自分や友だちのがんばりに気づかせることで、よりよい人間関係を形成する。 ・児童が書いたふり返りカードを各学級で紹介する時間を設けることで、縦割り活動への意欲を向上させる。 ・児童会活動での子どもたちの意見を取り入れながら、随時縦割り給食やイベントを行い、活動の充実を図る。 ・ボランティア・美化委員会委員長の放送説明やボランティア集会を行い、児童の意欲・関心を高める。 ・全職員で、ボランティアに取り組むことができる児童にシールを渡し、価値付けていく。(自己申告を認めていく。)
	●健康・体づくり	・「早寝・早起き・朝ご飯」の徹底	・学年に応じた就寝時間を守る児童の割合を80%以上にする。 ・歯科の受診率を80%以上、眼科の受診率を70%以上にする。	・過去の生活アンケートで見えてきた夜更かしの実態について、家庭へ啓発を行い、家庭でのルール作りを推進していく。 ・健康診断実施後の他、学級PTAや保健指導時など機会あることに受診勧告や呼びかけを行う。
	●体力の向上	・体力の向上	・週3回は、昼休み以外で遊ぶ。 ・スポーツチャレンジを各学年2種目以上選択したものを1年間継続して取り組み、各種目佐賀県ランキング上位3位以内を目指す。	・外遊びの奨励をしたり、みんなで遊ぶ日を定期的に設定したりする。 ・体育の授業において(準備運動後の5分間程度)1年間継続的に取り組むことで、児童の運動に対する意欲を高め、体力の向上につなげる。 ・明確な数値目標(順位、回数、タイム)を各学年ごとに決め、達成に向け継続的に取り組み、途中経過を確認しながら、意欲向上を図る。 ・昨年度県1位の記録を1年間掲示し、目標をもって取り組む環境をつくる。 ・体育学習での体力向上とともに、学校や地域での外遊びの奨励に努めていく。
○地域の特徴を活かした教育	・地域学習教材の活用 (「次郎の里」教育の実践)	・下村湖人生家体験学習を各学年1回実施する。 ・「次郎」に関する各種行事を通して、下村湖人や次郎への理解を深める。	・「次郎物語検定」(中・高学年)、「次郎カルタ大会」(低学年)を実施する。 ・「次郎とのふれあい遠足」「次郎とのふれあい週間」「次郎とのふれあい集会」の内容を検討し充実させ実施する。 ・下村湖人生家での各種行事を紹介し、参加を呼びかける。	

③学びづくり(学力向上の推進と道徳科の工夫・改善)

領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策
学校運営	○教職員の資質向上	・教職員の指導力向上	・研究授業、全員1回は公開する。 ・教育センター講座又は研究会発表会に1回以上参加する。 ・外部講師を招聘しての研究会を年6回以上実施したり、授業実践のための書籍を購入したりして、研鑽を積む。	・授業改善に向け、校内研修を活性化させる。 ・センター講座を奨励したり、研究発表会の周知を図ったりする。 ・校内研修で学習状況調査等の結果分析を行い、具体的な改善策を検討する。 ・職員の研修希望を集約し、それに見合う講師招聘を行う。
教育活動	●学力の向上	・各学年毎の到達目標の設定 (4教科)	・1～3年 学力検査の正答率を全国平均値より+5ポイント以上にする。 ・4～6年 12月調査で県平均より+3ポイント以上にする。	・毎学期、学力向上推進委員会を開催し、具体的取組について検討する。 ・校内研修で学習状況調査等の結果分析を行い、具体的な改善策を検討する。 ・週のスキルタイムの充実を図る。また、必要な児童には個別指導を行う。 ・授業改善に向け、校内研修を活性化させる。
	●家庭学習の習慣化	・家庭学習の習慣化	・学年に応じた家庭学習時間を97%以上が達成する。 ・毎日の宿題ができた児童を100%にする。	・県の「家庭学習の手引き」、市の「親学・子学」(家庭学習)等を利用して、保護者に対し家庭学習の大切さを定期的、継続的に啓発する。 ・学年に応じた家庭学習の時間を設定し、児童や保護者に周知することにより、家庭学習の習慣化を図る。 ・毎日の宿題を必ず提出することを徹底し、習慣化を図る。
	○読書習慣の定着	・読書活動の推進	・年間平均130冊の達成者を、達成率90%以上にする。 ・推薦図書50冊達成率を90%以上にする。	・新刊図書や学年に応じた推薦図書の紹介、図書委員会によるイベント等を通して読書への関心を高めるとともに、読書に親しむ習慣を身に付けさせる。 ・130冊・50冊の達成者には表彰を行い、読書意欲を高める。
●心の教育	・道徳教育の充実	・「ふれあい道徳」の授業参観への参加率を80%以上にする。 ・「いのちを考える集会」へ、できるだけ多くの保護者に参観していただく。 ・本校独自の「教科道徳」のあり方を、校内研究を通して確立する。	・「ふれあい道徳」、「いのちを考える集会」の告知を、通信等でできるだけ早く保護者に行う。 ・授業や行事における児童の振り返りを道徳ノートを通して保護者と共有し、学校の道徳教育の取り組みへの理解を図る。 ・年間を通じた計画的な校内研修や研究授業の研鑽の場を通して、道徳授業のあり方を深める。	

本年度の重点目標に含まれない共通評価項目

領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策
学校運営	●業務改善・教職員の働き方改革の推進	・長時間労働の解消	・毎月の時間外勤務時間50時間以内の割合を90%以上にする。 ・勤務時間を意識し、計画的効率的に職務遂行できた職員の割合を70%以上にする。	・18:00の退勤時刻と18:15の施設時刻を徹底し、最終退勤時刻を職員に周知し、意識を高める。 ・職員会議の精選、校務分掌の平準化を行い、全職員で協働的に教育活動を行い、自覚的な働き方改革に取り組む。 ・校務分掌の平準化を図り、定期的な指導部会に於いて、校務や校内研究内容についても効率的・協働的に検討し合い、チーム学校として教育活動に取り組む。 ・「ちとせっ子応援隊・ふれあい隊」を活用し、職員の業務削減を図る。
	○学校経営	・学校開放と情報公開	・学校行事、授業参観への参加率を90%以上にする。 ・ホームページの更新を週1回以上行う。 ・地域人材等を年間2回以上活用する。	・参観日等の学校行事前には、学校(学級)便りや携帯メール等で情報提供し、参加を呼びかける。 ・ホームページの更新を随時行い、積極的に学校情報を提供する。 ・人材リストを職員に周知し、年間計画を視野に入れた活用の啓発を図る。

●は共通評価項目、○は独自評価項目